

東奥日報  
2024年(令和6年)12月19日(木曜日) (14)



# 自作ロボ巧みに操作

ハ 戸

八戸工業大学のロボットコンテストが17日、同大で開かれた。工学部工学科機械工学コースの3年生33人が、8班に分かれて各班が工夫して製作した自慢のロボットで、性能や操作の正確さ、速さを競い合った。

(野上圭佑)

ロボコンは今回が27回目。ロボットの大きさは全長45センチ、高さ35センチ、幅30センチ以内の条件の下、各班が7月に設計を始め、9月から製作してきた。

競技は制限時間5分間で、縦に積まれた外径10センチ(内径6センチ)の亚克力製の5色のリングを、五輪に見立てたボードに一つ一つかけていく速さを競った。1班4〜5人

工夫して製作した自慢のロボットで白熱した戦いを見せる学生たち

## ハ工大コン 八工高生も参加

の8班が2グループに分かれて予選リーグを行い、各グループ上位2班の計4班による決勝トーナメントで順位を決めた。

学生は役割分担をしながら、コントローラーでロボットを巧みに操作。リングを途中で落とすとしてしまうハプニングや1秒差で勝負が決まる白熱した戦いに、場内の学生らも一喜一憂しながら競技を楽しんだ。また高大連携事業の一環として、八戸工業高校の生徒が初めて参加。大学生との交流戦も行われた。

優勝を決めた班の高松泰樹さん(21)は「率直にうれしい。先生の助言などももらいながら工夫してロボット作りを進めてきた。製作作業を経てチームの仲も深まったと思う」と喜びを語った。八戸工高2年・小田明希さん(17)は「大学生のチームには負けてしまったが、大学生ならではの知識や技術を知ることができたので、学びがあった」と話した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」